

ベトナム投資環境視察 ミッションに参加して



飯島 洋一

IIJIMA Youichi

中川ヒューム管工業(株)
総務部

昨年の10月5日(日)午前10時、成田からベトナム・ノイバイ空港に向かった。ジェットロ茨城主催のベトナム投資環境視察ミッションで参加者は23人。

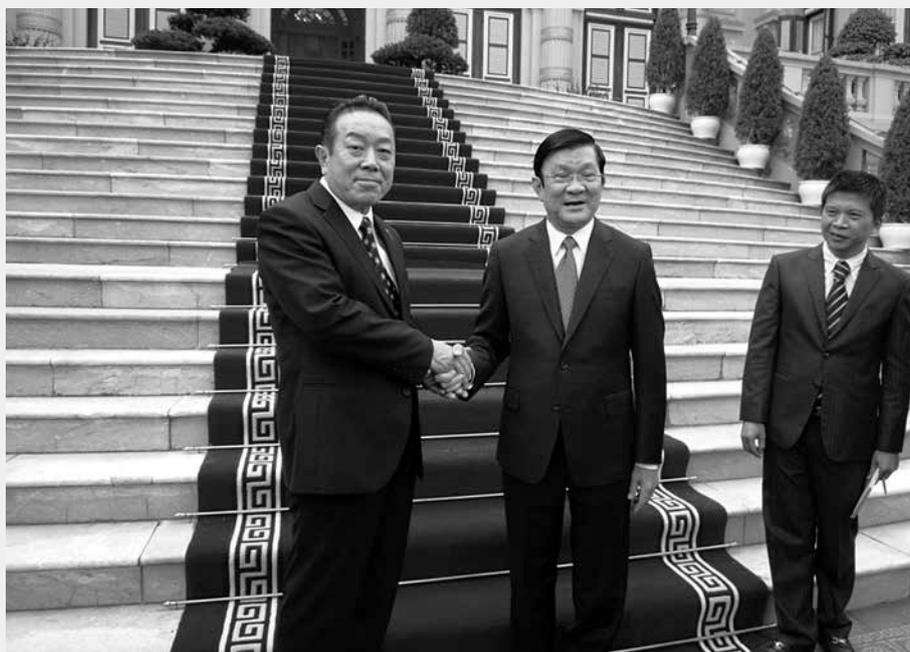
国土面積は日本の約85%。人口9千万人。国の平均年齢28歳。ノイバイ空港に着くとすぐにバスでハノイ市街へ。中心街で降り電気自動車で見学するもの人・人・人、バイク・バイク・バイクと凄まじいエネルギーを体感させられ、国全体で発展して行く躍動感と若い熱気に度肝を抜かれました。気温は27度で暑さを覚悟していたが、近々までの日本の夏を切り抜けた私にとってはむしろ涼風だった。

二日目、ジェットロハノイ事務所で活動状況について所長から説明を受けた後、政府関係機関へ向かった。計画投資省での意見交換では、ゲン・ヴァン・チュン副大臣が「今後も日本からの投資や進出事業が成功するよう、全力でサポートすることを確約する」と述べるなど、農業や商工業などの分野で協力関係を深めて

いくことを確認した。

午後入ると我々ジェットロベトナムミッションは、橋本昌茨城県知事を団長とする団体と合流し同国のチュオン・タン・サン国家主席を表敬訪問。これは、サン国家主席が国賓として3月に来日し、茨城県を訪問した際、茨城県とベトナム国の農業での協力関係強化について覚書を締結した。今回、サン国家主席より「ぜひベトナム農業の実態をみてほしい」との要望を受けて実現した。サン国家主席は「互恵的協力関係をさらに促進していく」と延べ、最後に記念品を交換された。

三日目、ハノイ市に進出した茨城県の現地工場および現地企業を視察しベトナムローカル企業を訪問し、現地企業の技術レベルや設備などを確認した。また茨城県からハノイ市に進出した日系企業の現地工場を見学した。午後にはハナム省(ハノイより南東)に進出した日系工場を視察し、ハナム省の投資誘致当局者との意見交換を行った。



会談が終了し施設前で農場視察の為の公用車を待っている時、自転車に日の丸の小旗を付けて日焼けした青年が走り去って行った。ホーチミンまで約1,400キロ。治安の良さも伺えた。夜は日本への留学経験があり、日本語が流暢なベトナムで会社を営んでいる方々との交流会が開催されベトナム人の本音（ビジネスチャンス）を聞き出すことができ大変参考となりました。

四日目、ハノイからホーチミンへ空路移動しタンソンニャット空港へ。ホーチミン市内の商業施設を視察し売れ筋商品や消費性向などハノイとホーチミンとでどう違うのか確認しました。また、茨城県からホーチミン市に進出した日系企業を訪問し、立ち上げ時の苦労話や現在の状況についてお話を頂きました。また、日本に多数の実務研修生を送り出している定評のある人材育成機関を訪問し研修した。

五日目、ビンズオン省（ホーチミンより北方）に

進出した日系工場を視察。併せて同省のインフラ開発状況を確認しました。

午後は、ベトナム最大の機械加工展「Metalex」とジェットロ部品調達展示商談会の共催による展示会を視察した。日本で行われる展示会は自社製品のPRが主となりますが同国の展示会は出店者側がこのような部品を調達したいという展示会スタイルを見学させて頂きました。

以上の工程を終了し午前0時10分発の成田行きに搭乗。午前8時30分無事到着し再会を誓い合い解散した。

今回の参加で感じたことは「忍耐を培う」という掛け替えのない大きな土産を日本に持ち帰ることができたことです。それはベトナムの人々が若いけれど「辛いこと苦しいこと」がたくさんあるはずなのに、見方を変えれば楽しんで生活している。忘れていた本物の忍耐を取り戻して参りました。

